

VII

道徳教育研究グループ

各学校の道徳教育の推進をはかる！

—道徳の時間を充実させるために—

道徳教育研究グループ

<研究員>

豊津第二小学校	教諭	平田 葵
西山田小学校	教諭	楫野 良子
高野台小学校	教諭	磯崎 淳子
藤白台小学校	教諭	宮本 真鈴
第六中学校	教諭	山田 梓
南千里中学校	教諭	明原 由美子
山田中学校	教諭	宅間 涼子
西山田中学校	指導教諭	野本 玲子

<スーパーバイザー>

大阪教育大学 准教授 金光 靖樹

目 次

1. はじめに	1
2. 研究目的と概要	1
3. 経過	2
4. 読み物資料を使った道徳の時間の授業	3
(1) 小学校の道徳指導案	
(2) 小学校の道徳研究授業の成果と課題	
(3) 中学校の道徳指導案	
(4) 中学校の道徳研究授業の成果と課題	
5. おわりに	14

1. はじめに

平成24年度より中学校でも新教育課程の本格実施がスタートし、小・中学校学習指導要領の総則・教育課程編成方針にあるように、全教科・領域・学校の教育活動全体を通して道徳教育を推進していくことが求められています。吹田市教育委員会でも、道徳教育を各学校で取り組むべき指導事項のひとつに掲げ、その推進と充実に取り組んでいます。

この教育の流れを受け、吹田市立教育センターでは、吹田市内の各小・中学校の道徳教育の推進と充実の一助となることを目標に、道徳教育研究グループを立ち上げました。小・中学校の教員からなる8名の研究員と共に、研究のスーパーバイザー(SV)として、大阪教育大学の金光 靖樹 准教授を迎えました。

研究のテーマは各校の道徳教育推進に寄与することを明確にするため、以下のように設定しました。

『各学校の道徳教育の推進をはかる！』
～道徳の時間を充実させるために～

2. 研究目的と概要

吹田市教育委員会では、指導事項「道徳教育」の重点項目に、以下の4項目を挙げています。

- (1)各学校で道徳の重点目標を明確にして取り組むこと
- (2)全体計画を作成しすべての教育活動を通して行うこと
- (3)「道徳の時間」の充実と道徳教育推進教師を中心とした校内体制を確立すること
- (4)吹田市の副読本を活用した指導を充実していくこと

研究グループの話し合いの中で、吹田市の道徳教育の現状としては、上記の項目のうち(3)「道徳の時間」の充実 ということについて、特に課題が大きいということがわかってきました。その原因として、資料にかかわる課題と、「道徳の時間」の指導についての課題があります。

大阪府教育委員会が平成22年3月に編集した冊子『夢や志を育む教育－道徳教育・キャリア教育－』の中では、「要となる「道徳の時間」では、読み物資料を中心とした資料を活用し、道徳的な価値を自覚し、人間としてよりよい生き方を志向する心情や判断力、実現しようとする意欲や態度を育成」する、とあります。吹田市においても読み物資料を活用した「道徳の時間」の授業づくりをしていくことは、道徳教育推進教師の担当者会等を通じて、各校で進めているところです。平成11年より、吹田市は独自に作成した小学校の低・中・高学年・中学校4冊の道徳副読本を配付しています。ところが、吹田市独自の副読本だけでは、掲載資料が内容項目を網羅していないこと、読み物資料が少ないことなどの理由から、それを補うための他の資料が必要になります。吹田市の現状では、予算の問題から、別に各教科書会社の副読本を購入している学校は少なく、読み物資料を活用しにくい環境にあるという課題があります。また、読み物資料を使った「道徳の時間」をどのように展開していけばいいのか、どんな授業がよい「道徳の時間」の授業なのか、学校で道徳の時間の指導が共有されていないという課題があります。

そこで、今年度は研究員同士で読み物資料を使った「道徳の時間」の授業について授業観を

共有することを研究の目標としました。そのために、小学校と中学校で読み物資料を使った「道徳の時間」の授業案を作成・実施することで、「道徳の時間」の授業やその指導について共有していくことにしました。また、小・中学生の発達の違いを明らかにするために、共通した読み物資料を使用して、共通した内容項目にねらいを定めて授業案を作成していくことにしました。今回実施する授業では、読み物資料として「あるレストランでのできごと」(出典:「ディズニーランド流心理学『人とお金が集まるからくり』山田 眞、三笠書房)、内容項目は「2-(2)思いやり」と決め、研究を進めました。

3. 経過

- (1) 平成24年 5月18日(金) 研究テーマと活動及びSVについて
- (2) 平成24年 6月28日(木) 研究テーマと研究内容について
- (3) 平成24年 7月10日(火) SVとの打ち合わせ
- (4) 平成24年 7月20日(金) 研究テーマ決定・内容について意見交換
- (5) 平成24年 9月10日(木) SVと研究内容について意見交換
- (6) 平成24年10月30日(火) 研究授業の資料検討
- (7) 平成24年11月26日(月) 研究授業の検討
- (8) 平成24年12月 4日(火) 小学校研究授業の指導案検討
- (9) 平成24年12月11日(火) 中学校研究授業の指導案検討
- (10) 平成24年12月19日(月) SVと研究授業の指導案検討
- (11) 平成25年 2月 7日(木) 小学校道徳公開授業(授業づくり研修を兼ねる)
授業者 豊津第二小学校 教諭 平田 葵
指導助言 大阪教育大学 准教授 金光 靖樹 先生
- (12) 平成24年 2月20日(水) 中学校道徳研究授業 SVとの協議
授業者 南千里中学校 教諭 明原 由美子
- (13) 平成24年 3月11日(月) 紀要107号について 本年度の反省

※SV: スーパーバイザー (Super Visor)

4. 読み物資料を使った道徳の時間の授業

(1) 小学校の道徳授業案

「あるレストランでのできごと」 小学校高学年対象 指導案

指導者 吹田市立豊津第二小学校 平田 葵

1. 日 時 平成25年2月7日(木) 第6時間目(14:40~15:25)

2. 学年・組 吹田市立豊津第二小学校 第5学年2組(38名)

3. 主題名 人の思いを大切に 思いやり2-(2)

資料名「あるレストランでのできごと」

(出典「ディズニーランド流心理学『人とお金が集まるからくり』」山田 眞、三笠書房)

4. 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。」という2-(2)思いやりの価値を担うものである。思いやりとは、相手の立場を推し量り、自分の思いを相手に向けることである。その上で、どのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。それは親切な行為として表れることもあれば、温かく見守ることもある。いずれにしても、相手の立場に立ち、思いに共感することが大切であり、社会生活において欠かすことのできない態度である。

東日本大震災以来、改めて「絆」「つながり」「思いやり」というものの大切さがクローズアップされている今、一人ひとりが人との関わりの中で生きていることを考えさせられるような報道なども多くある。そのような絆や思いやりをより深く求め、行動している人も今の日本にはたくさんいることだろう。しかし、この大阪で平穏に毎日を過ごしている子どもたちにとっては、その現状は切実なものではないだろう。むしろ、家族や仲良しグループの友達、学級や学年といった限られた人間関係の中で生活し、ゲーム画面を通して友達と遊ぶことも多い子どもたちは、人と関わりの中で相手の立場に立って、本当に相手のためになることをしっかりと考える機会もあまり多くはないのかもしれない。

そこで今回は、自分の損得やルール、人からの評価などにとらわれることなく、相手の立場や気持ちを思いやり、自分がすべきことを考えて行動することのすばらしさを感じとることで、社会で生活する一人として、自分に近い人だけでなく誰に対しても思いやりの心を持つこと、そして人の気持ちを推し量り、判断してすべきと思ったことを行動に移せることの価値を深めていくことをねらう。

（２）児童の実態

本学級の児童は、仲良しグループにかかわらず困っている人がいたら声をかけたり、助けたりすることができる場合が多く、友達との関わりがさほど固定化しているわけではない。しかし、仲のよい友達に対して「きれいなおかずを減らす」「答えを教える」など表面的な優しさが見受けられる。友達によく思われたくてその場だけ喜ぶことをして、それが相手のためになるかどうかまで考えることなく行動しているように感じられることがある。これは、本当に相手の立場に立って、真の意味で相手を思いやったといえるものではない。

思いやりについては、日頃から話をする機会も多いが、じっくりと話し合ったり、深く考えたり、価値を共有したりする機会はあまりなかった。そこで本資料を通して、相手の立場に立って思いに寄り添い、そのために自分ができること、したいことを考えて行動化することの価値を深めたい。

（３）資料について（資料分析）

本資料「あるレストランのできこと」は、ディズニーランドの経営について書かれた書籍をもとにしている。ディズニーランド内のレストランにやってきた若い夫婦が、二人しかいないのにお子様ランチを注文する。店のマニュアルでお子様ランチは子どもにしか出せないことになっていたので店員は困惑するが、訳を聞くと1歳を待たずして亡くなった娘の誕生日に、おなかの中にいたときに「ここにお子様ランチを食べに行こうね」と約束したことから娘のためにお子様ランチを頼みに来た、ということであった。それを聞いた店員は言葉を詰まらせ、その後お子様ランチを提供するのみならず、4人掛けの席に移動してもらい、子ども用のいすも用意した。そして本来マニュアル違反であるこの店員の行為に対し、上司も他の店員も協力し、会社も褒め称え、客の夫婦から届いたお礼の手紙はこの店員の行動とともに社内報で全社員に伝えられた、という実話をもとに書かれている。今回は、ディズニーランドという特別な設定をなくし、「ある有名レストラン」とすることで、より一般化して資料を提示する。

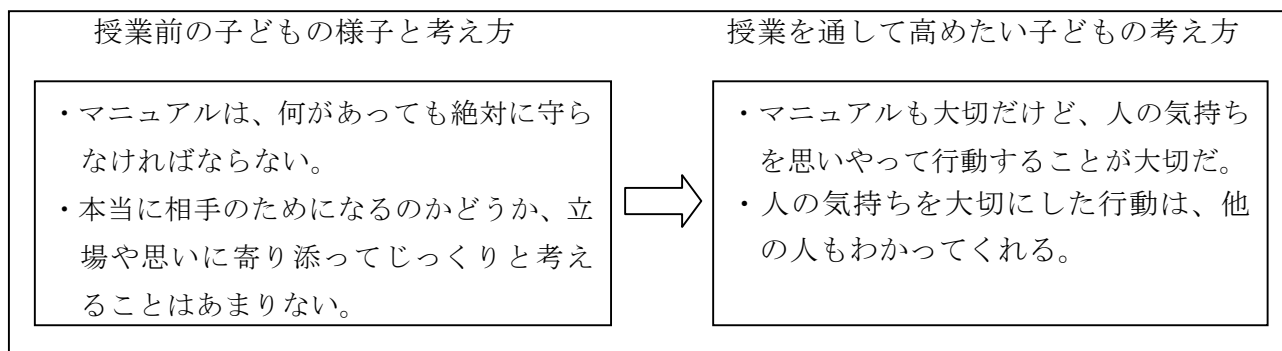
授業では、①マニュアルに違反してまでも、夫婦の思いを大切に行動したこと、②思いやりに基づいた行動は、他者からも認められるということ、の2点を押さえることでねらいにせまりたい。そのために、初めに注文された時の思いを、お子様ランチを「出す」「出さない」の両方について理由とともに書かせることで、揺れ動く店員の思いに共感しながらも、マニュアルは守るべきものであるということを押さえておく。資料は場面ごとに分けて提示し、その瞬間の店員の思いに寄り添いやすくする。お子様ランチを注文した理由を聞いたところで児童は「出すべきだ」と心が動くと思われるが、この店員は夫婦の注文したお子様ランチだけでなく、テーブルの移動や子ども用のいすの用意といった行動を自分の判断で行ったことから、相手の思いを大切にし、そのためにできることを考えて行動しようとする思いにより深く迫らせたい。また、基本的に授業は店員の気持ちに共感して読み進めるが、最後に自分としてこの話を振り返ることで、思いやりに基づいたこの行動は他者からも認められ、人の心を打つものだとすることを実感させたい。

5. ねらい

客の思いを大切に行動した店員の姿を通して、人の気持ちを思いやって行動することの

価値を改めて感じるとともに、それは他者からも認められるものであることを知り、自分も人の気持ちを大切に行動しようとする心情をはぐくむ。

6. 期待する児童の変容



7. 本時の展開

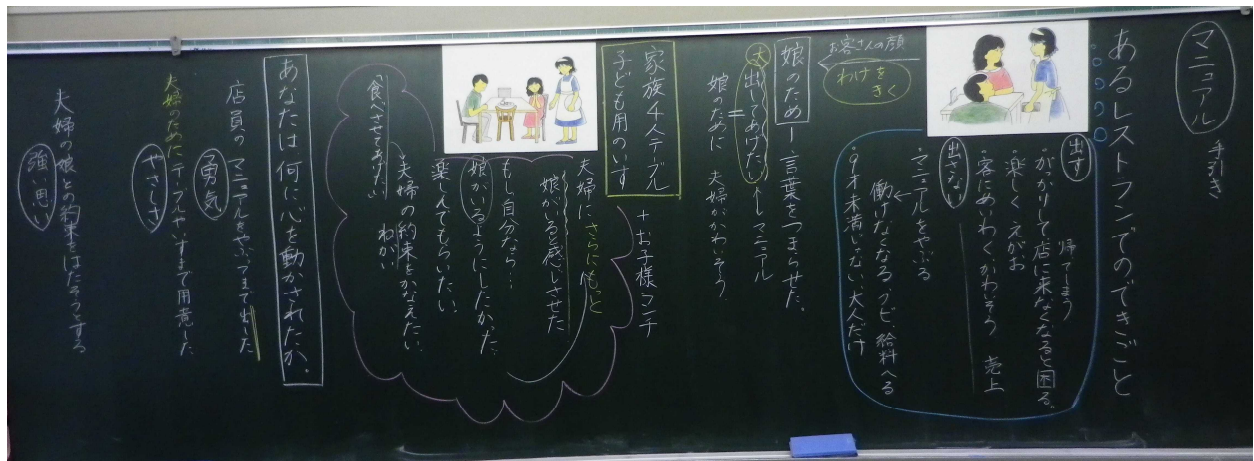
学習活動と内容	主な発問と児童の思考の流れ	指導上の留意点
1. レストランでの経験をふりかえる	<p>○レストランでお子様ランチを食べる人？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あれは子どものものだから食べない。 ・小さい子しか頼めない。 ・昔は食べていたけど、高学年だから恥ずかしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼い子が食べるものであり、店のマニュアルとして子どもしか頼めないことを押さえる。 ・挨拶の仕方や商品の出し方など、どの店や店員もだいたい同じであること、それは店が決めたマニュアルに沿っていることを知らせる。また、店員には研修があり、マニュアルを守ることを教育されていることを押さえる。
<p>2. 資料「あるレストランでのできごと」を読んで話し合う。</p> <p>(1) 「お子様ランチをください」といわれて困惑する場面</p>	<p>○大人二人なのに、お子様ランチを注文されたお店の人が困ったのは、どんな考えで揺れていたからでしょう。</p> <p><出す></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんは大事だから、要望に応えた方がいい。 ・お客さんを怒らせたなら、店の評判が落ちる。 <p><出さない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルでは大人は頼めないいきまりだから、出すことはできない。 ・マニュアルをやぶったら、店長におこられる。くびになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様ランチを「出す」「出さない」の両方の立場で、そう考えた理由をワークシートに書かせる。 ・「出さない」理由からマニュアルをやぶることの責任の大きさを押さえておくことで、それを乗り越えた店員の行動が価値づけられるようにする。

<p>(2) 客の話を聞き、言葉を詰まらせた場面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他のお客さんもいるから、特別扱いはできない。 <p>○二人の言葉を聞いて言葉を詰まらせた店員は、この瞬間何を考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そんな理由があったなんて、びっくりした。 ・迷っていた自分がはずかしい。 ・さっきは出せないといって、悪いことをしてしまったな。 ・マニュアル違反だけど、この夫婦のためにお子様ランチをお出ししよう。(決意) ・こんな理由なら、やっぱり出した方がいいかなあ…。(逡巡) 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルという客観的な視点から、お客の思いに触れて、店員の視点が心情面に変化したことをとらえさせる。 ・次の発問と重なる部分も若干考えられるので、お子様ランチを出そうと決意した理由まではここでは問わない。
<p>(3) 席の移動など、その後の対応をした場面</p>	<p>◎マニュアルをやぶってお子様ランチを出すだけでなく、席の移動やいすの用意までもしたのは、どんな思いからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルよりも、お客さんの気持ちの方が大切。 ・二人の思いが伝わったから、娘さんの誕生日をいい思い出にしてあげたい。 ・娘さんとの約束を果たせるようにしてあげたい。 ・喜んでもらえるようにできるだけのことをしたい。 ・二人が娘を思う気持ちがわかったから、子どものいる家族としてもてなしたい。 ・こんな理由があるのだから、マニュアルをやぶっても仕方ない。せつかくだからできるだけのおもてなしをしよう。 ・理由を知れば、きっと他の人もわかってくれるはずだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルよりも、相手の心を思いやることを優先させたことを押さえる。 ・補助発問として、店員にとってこの二人は、たまたま来店した初めて出会った人であることを補足し、揺さぶりをかけることで、思いやりの対象が身近な相手でなくとも、ここまでの行動をしたことの価値を高める。 ・夫婦の思いを大切にしたら結果が、頼まれたお子様ランチ以上のもてなし(行動)であったことをおさえる。

<p>(4) 資料を振り返って</p>	<p>○この話を聞いて、あなたが心を動かされたものは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い夫婦のために、マニュアルをやぶってまで願いを叶えた店員さんの優しさ・思いやり。 ・お子さまランチ以外にも考えてもてなした店員さんの思い。 ・娘のためにお子さまランチを頼んだ夫婦の愛情。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店員の立場から離れ、自分として客観的に資料について振り返ることで、思いやりに基づいた行動が人の心を打つものであることに気づかせる。 ・夫婦の娘に対する愛情について意見が出た場合は、「この店員も、その愛情が伝わったからこそ、きっとこんなことをしたんだね。」とふりかえり、家族愛で終わらないように留意する。
<p>3. ふりかえりをする。</p>	<p>○今日の学習で、わかったことや考えたことを書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に、この話は実話であること、実際にはこの店員の行動は店のみんなが協力し、会社からも褒められたこと、夫婦からお礼の手紙が届いたことを知らせる。

参考文献

- ・「小学校学習指導要領解説 道徳編」 文部科学省、東洋館出版社、2008
- ・「夢や志をはぐくむ教育 中学校版」 大阪府教育委員会、2011



(2) 小学校道徳研究授業の成果と課題

本資料は中学校版の「夢と志をはぐくむ教育」ではキャリア教育の資料として掲載され、もとは一般の書籍から抜粋した資料です。小学校の授業として「思いやり」の価値にせまるために、「資料のどの部分を、どの程度の重みで取り扱うか」ということを練り上げることに時間をかけて資料分析を行いました。授業を終えての実感としては、危惧していた「マニュアルは理由があればやぶってよい」などの、マニュアルについての認識に寄りすぎることなく、ねらいとする価値に迫れたのではないかと考えています。

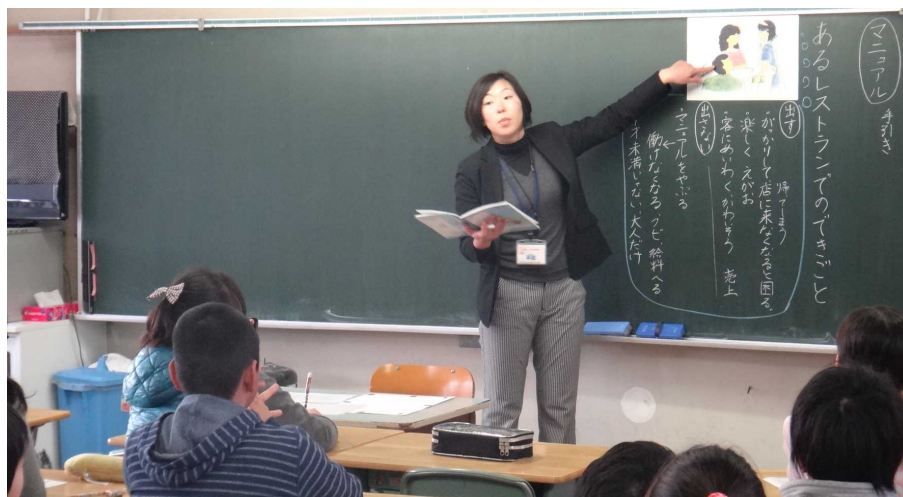
展開後段では資料に沿って考えた後で店員の立場を離れ、「このお話を聞いて、あなたは何に心を動かされましたか。」と発問したことにより、自分自身の考えを深めることができたと考えます。そこでは、「①この夫婦や娘のことを思い、何とかしてあげたいと考えたやさしさ」、「②マニュアルよりも気持ちを優先して自分にできることをできるだけ行動に移した勇氣」、「③夫婦が娘との約束を果たしたいという強い思い」ということが、授業内の発言としてありました。①②の店員の視点からは思いやり、③の夫婦の視点からは家族愛を捉えていたと分析できます。家族愛という関連価値の扱い方として今回は、「夫婦が娘を思う気持ちがこの店員を動かし、この店員が夫婦を思う気持ちがあなたを動かした」とまとめました。教師からのまとめであったものの、人を思いやる気持ちは、他者にも認められ、人を動かすものであるということに気づくことができたのではないのでしょうか。ふりかえりを読んでみると、8割以上の児童が店員の思いや優しさについて書いていました。

本時では書く活動を2回取り入れましたが、最後のふりかえりを書く時間が少なくなりました。ねらいにせまる、価値についてよく考える授業を、45分できちんと収めていくためには、もっと工夫が必要であると実感しました。

今回の授業では、公開した1時間だけでなく、他校で他の先生による事前授業、隣のクラスでの事前授業、3年生での授業も行いました。

それらを通して、

- ・発問ひとつで最後のふりかえりが変わる＝価値へのせまり方が変わる　ということ
- ・同じ指導案、発問で行った授業でも、児童の実態によって強く表れる中身が少し違ってくる　ということ
- ・発達段階によって、価値のとらえ方や深まり方にはっきりと差があること　などにも改めて気づくことができました。



(3) 中学校の道徳指導案

「あるレストランでのできごと」 中学校対象 指導案

指導者 吹田市立南千里中学校 明原由美子

1. 日時 平成25年2月20日(水) 第5時限(13:30~14:20)
2. 対象 第1学年3組(33名)
3. 主題名 人の温かさを知り、他の人に対して思いやりの心をもって行動しようとする心情を養う。2-(2)
資料名「あるレストランでのできごと」
(出典「ディズニーランド流心理学『人とお金が集まるからくり』」山田 眞、三笠書房)

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

中学校における内容項目2-(2)をうけ、人として他人を尊重し、思いやりを持って人に接する心を育てるのがねらいである。

東日本大震災や阪神淡路大震災がもたらした生活や心の苦しみ、各地で起こるいじめ問題など、生徒の身近なところでなくても心痛める出来事が報じられる日常に、誰にでも温かい心を持って接することができるということがいかに大切であるかを生徒には感じてほしい。生徒自身の身近な人に対しても親切に接する心を育ててほしい。さらに、視野を広げて社会の一員としての自己を見つめ、人間愛に満ちた人格を育てることがねらいである。

(2) 生徒の実態

生徒たちは小学校6年間を経て、自己や他者に対する認識が急激に変化する年齢になり、中学校という新しい環境で生活している。中学校3年間は友人との関係が大きな位置を占める時期であり、他者を思う感情は友人関係を通して大いに形成されていく。しかし、本音を出さずまわりに同調したり、閉鎖的になったり疎外感を持つことが多かったり、自尊感情が大きく低下するのもこの時期である。

生徒たちを見ていると、友人関係で悩んだり、友人とのかかわりの中で自分の課題を乗り越えたりしようとする姿もある。しかし、特に仲のよい友人やクラブ活動などでかかわりの深い友人に対してはみせる思いやりの気持ちも、あまり親しくないクラスメイトや同じ班の人の対しては率直に表されることは少ない。

授業を進める上では、学年全体としては、集中するまでに時間がかかるクラスがある一方、逆に周囲の目を気にして挙手や発表をためらい、積極性に欠けるクラスもある。いずれにしても読解を深めていくには厳しい実態がある。その中で「誰に対しても温かい気持ちで接する。」ということの育むのは容易なことではない。授業での意見交流を重ねる中で、人の意見に耳を傾け、自分の考えを述べるという活動を続けている。本時では、相手の立場に立って考え行動できる心を育てることをねらいとして生徒の心に働きかける。

(3) 資料について

本授業では『ディズニーランド流心理学』山田真著（三笠書房）より「あるレストランでのできごと」を資料とする。

中学校では、特にディズニーランドという設定を明らかにし、背景を踏まえて考えることで、社会の一場で現実に起こりうる（現実に起こった）話として捉える。実名を出すことによって現実の世界でのキャストの姿を通して、社会の一員としての将来の自分の姿も描くことができると考えた。資料による具体例のもとに、登場人物の立場に立ってその場の状況を考えた上でどのように判断し、どのような行動をとるのかを考えさせる。

この資料は、テーマパークのキャスト（従業員）という社会的な立場で任務を果たすべき主人公が、社会的慣習を踏まえた他者の視点の理解を果たした内容になっている。状況の違いはあっても、日常生活でも自己の判断を迫られる場面に遭遇することがある。

自己と他者という個人的な関係性だけでなく、マニュアルという社会的な（職業上の）規範を前提とした中での自己を見つめる視点、他の人を見つめる視点、をどのように捉えることができるかということがこの教材での一つのポイントとなる。

この文章の結末で得られた賞賛とともに、多角的視点で結末を読み取る。様々な角度から物事を見ることで、相手の立場に立って物事を見る目を養うことがねらいである。

5 本時の学習

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	<p>○ディズニーランドについて知っていることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真を提示してファンタジックなイメージを確認する。 スーパーのパフォーマンスの写真を提示してキャストが研修により教育されていることなどを理解する。 マニュアルとはどういうものかを考える。 話の舞台になったレストラン「イーストサイド・カフェ」の写真提示 	<p>ディズニーランドが他のテーマパークと違うことを知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「夢の王国」としての演出がされていること。 ゴミがない。 地下トンネル 90%を超えるリピーター率 従業員のことをキャストと呼ぶ。 キャストはマニュアル研修によって徹底的な教育がなされている。 <p>「マニュアル」とは何か知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語で表現するとどうなるか、どのようなマニュアルがあるのかなどの補充質問で考えさせる。 <p>そのサービスの一つがお子さまランチであることを説明</p> <p>お子さまランチを食べたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> お子さまランチには年齢制限がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ディズニーランドではキャスト（従業員）はマニュアルを遵守し、ゲストに最高の接客を提供する。 キャストは、ディズニーランドで働く人というイメージではなく、案内人、あるいは住人というようなイメージさえ与えるということを認識させる。 「マニュアルは日本語では手引き書と訳される。どこの企業でもマニュアルに反した行動を起こすと始末書を書かねばならない。」と「マニュアル」が企業にとって重要な役割を持つものだということを理解させておく。

○資料を3つの部分に分けて教師が範読し、話の展開をとらえる。

場面1

「こんな話がある」

- ・挙手して発表

このときキャストはどんな気持ちだったのでしょうか。

- ・客の注文をうまく断るにはどういったらよいか。
- ・二人の客なのに3人分のメニューを注文したのはなぜか。

あなたがキャストならお子さまランチを出しますか。

出す 客の要望に応えることが第一

出さない マニュアルを守ることが第一

- ・マニュアルとお客様に満足してもらうこととの間で揺れるキャストの気持ちを確認させる。
- ・出したならどのようなことが予想されるか。
- ・出さなければどのようなことが予想されるか。

マニュアルに反する。
客の要望に応じる。
上司から叱られる。

← 困 惑 →

マニュアルを守る。
客の要望に応じない。
客から不満が出る。

範読

場面2 「そう言われて」
挙手をして発言

- ・発言の中に夫婦の気持ちを察するものがなければ補助質問をする。
- ・ワークシート配布
- ・ワークシート記入
- ・挙手で発表
- ・指名発表

「本当の理由を聞いたときキャストはなぜ言葉をつまらせたのでしょうか。」

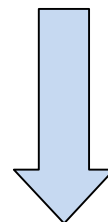
- ・想像を超える理由にどう対処してよいのかわからなかった。
- ・断るには事情が深刻すぎると断り方を思案した。
- ・この夫婦の気持ちはどのようなものですか。
 - ・娘への深い愛
 - ・娘を亡くした深い悲しみ

「若い夫婦の答えに対して、キャストはどのようなことを考えたのでしょうか。」

- ・夫婦の思いを受け止めてどうすればよいと考えたのか。

そして、どのような行動をしたと思いますか。

- ・若い夫婦の思いにふれてキャストの心が動いたことに気づかせる。
- ・理由を聞いてマニュアルに従うか否かという問題から、どうすればこの夫婦の気持ちに寄り添うことができるかという問題にキャストの考えが及んでいく過程を捉えられるように気をつけながら進めていく。



<p>展開 3</p> <p>考察</p>	<p>範読 場面3 「そして次の瞬間」</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート記入 グループでの話し合い グループの結果を発表 意見交流したあとの意見を色ペンで記入する。 <p>○感謝の手紙が届き、ディズニーランドの全キャストに紹介され、賞賛を浴びたという後日談を紹介する。</p>	<p>お子さまランチを出したキャストの気持ちを考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼くして娘を亡くした若い夫婦によい思い出をつくってもらいたい。 マニュアルを破ってこの夫婦に悲しい思いをさせたくない。 <p>お子さまランチを出すだけでなく、テーブルや椅子の用意をしたのはなぜでしょう。</p> <p>このキャストの行動はどう評価されたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> マニュアルにないことが起こったときに自分で判断したこと 仕事での任務を果たすということ お客さんの立場に立って行動できたこと <p>補助「他の客から見るとどうだったのか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャストがマニュアルを守って接客することに疑問を感じるに至った心の動きを読み取る。 お子さまランチを出すだけでなくテーブルや椅子の演出をしたことはマニュアル以上の行為→おもいやりだということに気づかせる。 「相手の立場に立って」というマニュアル本来の意味を考えさせることができるか。 人の気持ちに寄り添い（おもいやり）、かつ公平公正という客観的視点に立っても評価されるべき事例であることを考えさせる。
<p>終末</p>	<p>○ワークシート記入</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰に焦点を当ててどのように考えたかを発表。 人の意見を聞いて自分はどう思ったか。 	<p>このお話に関わる人物に焦点を当てて、その人の気持ちの動きを詳しく書いてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな人の思いを考えてみる。 一つの行動が生み出す周囲への影響にも考えを及ぼせる。



(4) 中学校道徳研究授業の成果と課題

中学校でこの授業を行うにあたって、どのような展開をさせれば小学校との発達段階の差を生かした、より生徒の心に深く響く授業ができるか、ということが課題でした。

自己や他者に対する感情が複雑になる中学生のこの時期では、理解という点において多面的なものの見方ができる一方、その意見や思いを発表するにあたっては、小学校のように多くの生徒の発表は期待できないだろうと予測していました。

授業前の指導案検討をする中で、「中学校ではディズニーランドという実名を出すことによって、『夢の国』という限定された場における『マニュアル』という前提をこの話と関係づけて考えることに中学生の教材としての有効性がある。」とSVの金光先生から助言がありました。研究授業では、中盤以降の展開に時間を取りたいために、前提での「夢の国」の接客理念や「マニュアル」の重みの説明が簡単になってしまったことで、後のキャストの困惑や葛藤の読み取りが不十分になったと考えています。

また、授業の中盤に、発問に対して挙手して答える生徒が少なくなり、授業展開がスムーズにいかなかった点において、答えやすい発問をすることで展開が進み、授業に活気が出るとの助言を受けました。ワークシートやグループ討議では積極的に取り組めてしっかりまとめられていたことを考えると、中学校での授業展開の鍵は発問に抽象的な表現を避け、できるだけ多くの生徒の思いを授業に乗せていくということにあることがわかりました。

終末で、「この話に関わる誰かに焦点を当て、その人の気持ちをできるだけ詳しく書いてみましょう。」という第三者の視点から考えさせるワークシートの項目を設けていました。これについては、第三者の視点を想定して、それらの視点間の関係性を考えることができる中学生では、このような問い方も有効だとの助言をいただきました。生徒たちの意見に亡くなった娘やレストランの他の職員などの思いも登場して興味深い発表になりました。



5. おわりに

今年度は、研究員の「道徳の時間」の授業についての指導観を共有するために、小学校、中学校の研究授業を実施しました。この2つの研究授業を通して見えてきた課題や難しさは、吹田市の「道徳の時間」の課題であると考えています。

小学校・中学校の研究授業では、事前授業・研究授業と実践するなかで、導入での意識づけや発問の仕方が、後になって道徳的価値に迫るときの方向性を左右することなどがわかりました。中学校の研究授業では、小学校との発達の違いが同じ資料で授業をしたことで明確になりました。また、終末の道徳的価値について自分の考えや思いをまとめるところでは、役割取得能力が発達してくる中学生と小学生では、自ずと発問や活動も変わってくるということもわかりました。それ以外にも、研究員の意見交換の中で見えてきた一般的な課題として、読み物資料の選び方や道徳的な資料の読み方、授業での主発問やそこに至るまでの補助発問の仕方、展開後段でどのように自分に返すのか、板書の仕方、などがありました。

次年度はこれらについて、道徳教育研究グループとして効果的な指導のあり方や方法などをまとめ、成果物を作成することを目指していきます。